



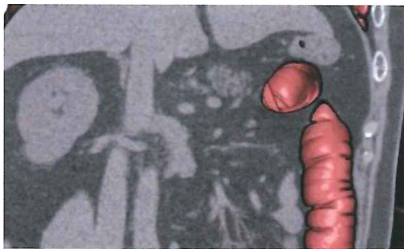
大腸CT検査のご紹介

当院では、64列CTを導入した数年前より大腸CT検査であるCT Colonography(以下CTC)を行っております。近年では施行する施設も増え、CTで撮影した画像を元に様々な三次元画像を作成し、バリウムを使用した注腸検査の代わりや内視鏡挿入困難例、手術前のシミュレーション画像作成などに使用されています。大腸ガン健診で行われる検便検査で便潜血陽性後に、精査として行う検査としても大腸カメラより負担が少なく行えるので注目されてきています。

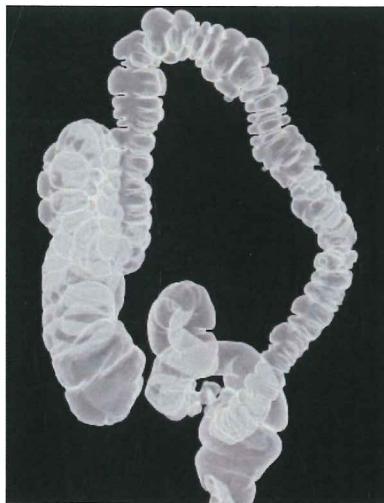
◆大腸カメラとの比較です。

	CTC	大腸カメラ
検査時間	○(比較的短い)	×(時間がかかる場合がある)
苦痛	△(ガスをいれるのでお腹が張る)	×(痛みが強いときがある)
侵襲性	△(無くはないが可能性は低い)	×(高くはないがCTCよりは高い)
ポリープ	○(問題となる大きさのものに対して)	○(より小さいものも見つかる)
腸管内の色	×(人工的に色をつけるので)	○(直接見える)
腸管外	○(腸管外の情報も写る)	×(腸管内しか見えない)
死角	○(いろんな画像表示ができるため)	×(ヒダの裏側が見えないことが)
平坦な病変	×(カメラよりは分かりにくい)	○(CTCより分かりやすい)
狭窄有	○(ガスなので狭窄でも可)	×(カメラなので通らない)
生検	×(生検不可)	○(生検可)
治療	×(治療不可)	○(治療可)
被曝	△(注腸バリウムよりは少ない)	○(場合によっては使うことも)
前処置	△(現在改良中)	×(腸管洗浄薬の量が多い)

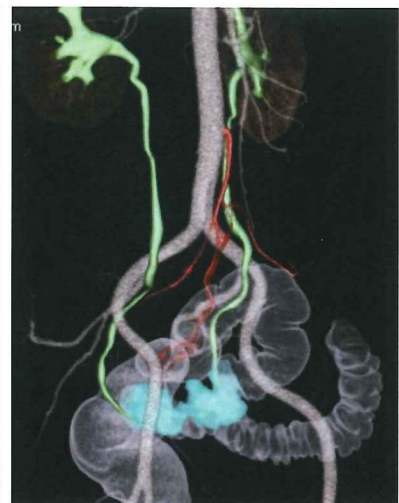
◆検査画像です。



仮想内視鏡像



注腸様画像



術前画像



監修 放射線科技師長
林 伸隆